

2026-6-23 年金広報検討会（第23回）

○安済年金広報企画室長 それでは、定刻になりましたので、ただいまより、第23回「年金広報検討会」を開催いたします。

皆様、御多用の中、御参加いただきまして、誠にありがとうございます。年金局総務課年金広報企画室長の安済です。どうぞよろしくお願いいたします。

議題に入る前に事務的な連絡事項を申し上げます。

本日は対面とオンラインの併用開催としています。今回は構成員、オブザーバーの方をはじめ、オンライン参加の方が多くなっております。オンラインにて参加の方は、御発言される際は「手を挙げる」ボタンをクリックいたしまして、座長の指名を受けてから、マイクのミュートを解除し、御発言をお願いいたします。御発言終了後は、再度マイクをミュートにさせていただきますようお願いいたします。

また、本日は、浅川構成員及び全国家庭科教育協会の宮田様より途中参加の御連絡を、年金シニアプラン総合研究機構の板谷様、仲都留様より途中退室の御連絡を頂戴しています。

議事に入る前に、議事の公開及びペーパーレス化の説明と資料の確認をさせていただきます。

資料0－1でお配りしている年金広報検討会開催要項に基づきまして、本会議につきましては原則公開することとしております。議事録につきましても、これまでどおり、原則公開することといたします。

また、厚生労働省では、審議会等のペーパーレス化を推進しており、本日の会議においてもペーパーレスで実施いたします。

傍聴の方には、あらかじめ厚生労働省ホームページでお知らせしておりますとおり、御自身のタブレット等の携帯端末を使用いたしまして、厚生労働省ホームページから資料をダウンロードして御覧ください。

資料は次第に記載されているものに加えまして、構成員及びオブザーバーの皆様には、議題5に係る資料といたしまして「いっしょに検証！公的年金」の、現在、ホームページにて公開しております漫画を机上配付してございます。

それでは、議事に移ります。

カメラの方がいらっしゃれば、ここで退室をお願いいたします。

ここからの議事運営は、上田座長をお願いいたします。

○上田座長 それでは、これより議事に入ります。本日は「（１）公的年金シミュレーターの試験運用状況について」「（２）年金対話集会について（令和８年度の開催状況）」「（３）若年層を対象とした年金広報の取組について（インフルエンサー施策）」「（４）年金に関する情報の整理について」「（５）『いっしょに検証！公的年金』のアップデートについて」。この５つを議題といたします。

まず、議題1の公的年金シミュレーターの試験運用状況につきまして、事務局から資料の御説明をお願いいたします。

○安済年金広報企画室長 お手元の資料1を御覧ください。「公的年金シミュレーターの試験運用状況について」の御説明をさせていただきます。

資料の1ページ目です。公的年金シミュレーターにつきましては、年金の仕組みを国民に分かりやすく周知すること、働き方などの変化に伴う年金額の変化を「見える化」して、国民一人一人の将来の生活設計を支援することを目的に開発されたツールです。令和8年5月31日時点で、実際に試算が行われた回数といたしましては1252万回超となっています。

資料の2ページ目でございます。「公的年金シミュレーターのKPIについて」となっており、これは前回の年金広報検討会でこちらからお示しした資料です。改革工程表の中で、KPI第2階層の部分の中間アウトカムの設定について、御助言をいただきたいということで提出させていただきました。

こういった中で、前回の年金広報検討会における主な御意見といたしましてまとめたものが資料の4ページ目になっています。

御意見といたしましては、KPIの第2階層、中間アウトカム設定について、公的年金シミュレーターを使うときに何が望ましい状態なのかということを設定しておかないとKPIが設定できない。

それから、2つ目の○の部分ですけれども、アクセスがどれだけあったかということも大事であるけれども、未了率とか離脱率みたいなものがもし把握できるようであれば本当は1000万人ぐらい来ていて、300万人ぐらいが途中でやめてしまっているような状況であれば、実はシミュレーターがうまく機能していないという可能性がある。

3つ目の○ですけれども、コンバージョンでどこのボタンまで来たかということが分かれば、単にKPIだけではなく、サイト改修のときにもすごい有効になると思います、というような御意見を頂戴しておりました。

公的年金シミュレーターにつきましては、今年4月から、老齢部分につきましてはより見やすいような形に見直すということ、それから、障害年金とiDeCoの試算についての機能追加を行っています。そうした中での試算回数につきまして、4月から5月の数値がここに書いてありますとおりとなっております。老齢年金につきましては約42万回、障害年金につきましては約1万2000回、iDeCo（積立て）は約2万7000回、iDeCo（受取・取崩）は約1万5000回となっております。

続きまして、公的年金シミュレーターの運用状況のヒートマップでございます。こちらはトップページ、それから、老齢年金、障害年金、iDeCoの積立てと運用と受け取り、それぞれのヒートマップを記載しています。ヒートマップにつきましては、閲覧されている箇所ほど赤く、閲覧されていない箇所は青で表記がされてございます。解析いたしますと、どのページにおきましてもファーストビュー内の閲覧が集中しておりまして、ファーストビュー内の必要な情報を私どもはできるだけまとめて記載するという方向性にしておりま

したので、おおむね目的が達成されているのではないかと考えております。

資料の11ページ目ですけれども、公的年金シミュレーターの運用状況のページごとの主要ボタン（コンバージョン）の状況につきましては、こちらに記載のとおりとなっています。

続きまして、公的年金シミュレーターの周知のページを御覧ください。4月からの公的年金シミュレーターの更改に先立ちまして、私ども、公的年金シミュレーターをさらに知っていただくということで、PIVOTを活用した周知活動を行っています。こちらの視聴回数につきましては、令和8年4月23日時点で約10万回超となっております。平均視聴率につきましては29.2%となっております。同じぐらいの尺のコンテンツの平均より上回る結果となっておりますけれども、開始3分で視聴率が4割程度まで下がるため、継続して視聴してもらう構成が課題ではないかと考えております。

以上が公的年金シミュレーターの概要でして、特に今回御議論いただきたい点としては以下の2点を示させていただければと考えております。

1つ目が、公的年金シミュレーターのKPIについてです。公的年金シミュレーターにつきましては「年金の仕組みを国民に分かりやすく周知すること、働き方などの変化に伴う年金額の変化を『見える化』して、国民一人一人の将来の生活設計を支援すること」を目的に開発されたものです。こうした目的に鑑みますと、年金制度に対する理解度の変化や行動変容を計測するのが望ましいということで、インタビュー調査等詳細な分析を定期的に行うことが必要となっておりまして、しかしながら、こういったことについてはなかなか難しいということがございますので、システムを用いて定期的に月次・年次推移で収集可能な数値ということで、近しいものといたしまして試算回数を用いることが適当ではないかと考えています。具体的な数値設定につきましては、当面の運用状況を踏まえて設定したいと考えております。

続きまして、コンバージョンの活用方法です。先ほどお示しした資料の中にありましたコンバージョンの部分につきまして、例えば次のような傾向が見られると考えております。トップページを訪れた人のうち、約82%が老齢年金、約7%が障害年金、約2%がiDeCoを直接試算しております。老齢年金試算における「働き方」や、障害年金における「この条件で試算」、iDeCo試算における「受取見込額タブ」につきましては、クリック率が100%を超えておりまして、何度も条件を変えて試算していらっしゃるということが分かっております。

このように収集した情報につきまして、今後の改修の参考としたいとは考えてございますが、このほか、活用方法等や御提案・御助言があれば御意見をいただければと考えております。

事務局からは以上になります。

○上田座長 御説明ありがとうございました。

それでは、議題1について、皆様から御意見、御発言等を承りたいと思います。

ポイントは2つございましたので、まず、公的年金シミュレーターのKPIについて御発言をお願いできればと思います。いかがでしょうか。

上村先生、いかがでしょうか。御発言は特によろしいですか。

○上村構成員 私ですか。

○上田座長 はい。

○上村構成員 あまり準備していなかったので申し訳ないのですが、これは、要は理解度の変化とか行動変容とかを計測するというのは、このシミュレーターでやるのは相当難しいなと思っています。

というのは、恐らく、まともにやろうとすると、事前と事後を捉えないといけないですね。そうだとすると工夫しないといけないですし、あと、リピートしていただける方の理解度がどう変わるのかということも気になっていますし、何をターゲットにするかというところをもうちょっと考えないといけないですから、そこがマクロで捉えるのは結構難しいなという感じです。

すみません。今、言われたので、ぼっと思い浮かんだのですが、今月頭に年金局の方々に私の大学のゼミにお越しいただいて年金対話集会をやったのですが、そのときに事前授業として私のほうからゼミ生に公的年金の授業をしたのですが、そのときに公的年金シミュレーターを学生に使ってもらったのです。そういう形でやるときに、事前と事後で何かデータを取ることができるかもしれないと、今、直感的に思いました。

そのときの感想なのですが、その場で私のゼミ生はいろいろ数字を動かしたりして、パラメータがバーになっていますので、あれは結構動かしやすいのです。いちいち入力すると結構しんどいのですが、バーになっているのでやりやすいのですが、どのパラメータを動かすと何が動くのかというのは結構楽しそうに調べていたので、これは特に若い学生はああいうものは結構慣れているなと思いました。

とにかく、やはりこれは真面目にKPIを取ろうと思うと、結構ミクロでやっていくしかないのではないかというように思った次第です。

すみません。いきなり振られたので、ちゃんとした答えができずに申し訳ないです。

以上です。

○上田座長 すみません。いきなり御指名して大変失礼しました。

ほかの皆様、いかがでしょうか。特によろしゅうございますか。

山口先生、どうぞ。

○山口構成員 では、せっかくなので、御説明いただきありがとうございます。山口です。こちらは前から取り組まれていて、非常によいサービス、シミュレーターだと思っています。今、KPIの話が出ておりましたが、KPIど真ん中の話ではないのですが、こういったことを確認したほうがいいのかというところを御提案させていただきます。

やはりこういったサービスというものはもちろん、どういう人がどのくらいアクセスしていて、そして、認知度はどれくらいか。これは極めて重要なわけですので、ユニークユーザー数と、そして、何回来ているかとか、どういうタイミングで来ているかとか、そういったことが大事なかなと思います。

それと同時に、どういう使い方をされていて、使ったことによって実際にどのような考え方の変化があって、そして、行動変容があったのかというところも大事だと思うのです。つまり、アクセスしてもらっても、それで何も変わらなかったら意味がないということですので、こういったことを調査するにはやはりアンケートをやるのが大事なかなと思っておりまして、ですから、今、こちらは結構普及してきていますので、アンケートをしたらそれなりに利用率とか、どんなふうに使っているかとか、それから、行動変容がどうなったかとか、考え方にどう影響があったかとか、そういったことを聞ける状況になってきていると思うのです。

ですので、ぜひそういったところを定量的に把握して、実はここが足りないのだとか、こういうところで行動変容につながっていないのだとか、あるいはこれがよかったのだとか、そういったところを拾って、それがまた改善につなげるとか、あるいは新しいサービスの開発につなげるとか、そういったところに生かすといいのではないかと感じた次第です。

私からは以上です。ありがとうございます。

○上田座長 ありがとうございます。

事務局のほうからは何かコメントありますか。

○安済年金広報企画室長 ありがとうございます。

アンケート調査などをやっていくのがいいのではないかとということを山口先生から御指摘いただきましたので、毎回取っていくというのはなかなか難しいのかと思うのですけれども、恐らく何かしらのタイミングでアンケートを取って、現状、どれくらい行動変容につながっているのかという部分について確認することについては有意義だと考えておりますので、そういうようなやり方ができるかどうかも含めて、少し検討させていただければと思います。ありがとうございます。

○上田座長 KPIについては、ほかの皆さん、よろしいでしょうか。

これは、上村先生と山口先生の御指摘を踏まえると、例えば年金対話集会が終わってからアンケートを取っていただいているのですけれども、例えば前に簡単なものを取って、事後も取って比較してみるとか、そういうやり方も考えられるか。お手間が増えて大変だと思うのですけれども、そんなことも御検討いただければと思います。

○安済年金広報企画室長 そちらのほうは、既に事前と事後を取っていきまして、あと、上村先生から実は御指摘いただきまして、事前・事後も個人も分かるようにさせていただいて、また後ほど説明させていただくのですけれども、事前・事後で、しかも個人の理解度がどう変わったのかというものは取れるようにしておりますので、もしその辺りで、シミ

ミュレーターを使ってというところに着目したもので何か調べられることができるのであれば少し考えてみたいと思います。

○上田座長 分かりました。ありがとうございます。

あと、コンバージョンの活用方法について、その他全般に公的年金シミュレーターについて御発言ある方がいらっしゃればお願いいたします。

特によろしゅうございましょうか。

○上村構成員 いいですか。すみません。

○上田座長 どうぞ。

○上村構成員 上村です。

今、年金対話集会で公的年金シミュレーターのアンケートを取るというのはすごくいいアイデアだと思うのですが、これは気をつけないといけないのは、年金対話集会もアンケートを取っているので、公的年金シミュレーターの効果なのか、年金対話集会の効果なのかを分離するのがすごく難しくなると思います。だから、そこはどう工夫するのかということは考えないといけないなと思いました。

取りあえず、以上です。

○上田座長 ありがとうございます。

そのほか、この公的年金シミュレーターの件について、全般、よろしゅうございましょうか。

それでは、議題1については以上とさせていただきます。事務局におかれましては、引き続き、試験運用状況のモニタリングとKPIの設定に向けた御検討をお願いできればと思っております。

次に、議題2の年金対話集会（令和8年度の開催状況）について、事務局から御説明をお願いいたします。

○安済年金広報企画室長 資料2を御覧ください。年金対話集会につきましては、令和8年度の開催状況についての御説明をさせていただきます。

令和8年度開催実績といたしましては、現時点、6月23日時点で、大学8校、10回の開催をしております。うち2校につきましては、地方厚生局と連携して開催しています。実施校については記載のとおりです。

こちらの年金対話集会ですけれども、事前・事後のアンケートというものを取っていただき、まず、事前に理解度と、それから、信頼度というものを取っておりまして、事前・事後との比較をできるようにしています。理解度につきましては、事前と事後と比べると、事後のほうが理解度が増えていっているというようなことが見てとれるかと思います。

続きまして、信頼度ですけれども、信頼度についても同様の傾向が見てとれるかなと思います。

こちらは、それぞれの回答していただいた方につきまして、ある程度、個人が分かるようにいたしまして、理解度が事前と事後でどう変わったのかということが分かるように、

3方向の軸の資料となっております。全体的に対話集会を実施することで理解度が向上しているということが見てとれます。それから、事前の理解が不十分と回答した層ほど、事後の理解度が大きく変化していると見えるかと思います。

続きまして、こちらは信頼度です。全体的に対話集会を実施することで信頼度が向上しているということが見てとれるかと思います。事前の信頼度が中程度の方の信頼度が特に大きく増しているというところも見てとれるかと考えております。

こちらは、事後の理解度と事後の信頼度を掛け合わせた資料となっております。全体的に対話集会を実施することで信頼度が向上しまして、事後の信頼度が十分高かった層ほど、事後の理解度が比較的大きく増しているのではないかと考えております。

以下、参考に、年金対話集会アンケートフォームの中の質問項目、事前・事後を記載させていただきます。

最後に、参考で、年金対話集会のアンケートをそれぞれ事前・事後、もっと知りたかったこと、本日の講義についての印象、広報のアイデアにつきまして記載しております。

年金対話集会についての資料の説明は以上となります。

○上田座長 ありがとうございました。

それでは、議題2について、皆様、御意見等ございましたら御発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

上村先生、どうぞ。

○上村構成員 それでは、私のほうから。

先ほど申し上げたとおり、年金対話集会を今月の頭に開催していただきました。本当に何年も連続してお越しいただいていることに感謝します。

今回も、今、やっていただいたように、事前・事後でアンケートをしたのですが、先ほど御案内があったとおり、個々の学生を区別できるような工夫をしたほうがいいのではないかと提案を私のほうからしまして、それによって平均的に捉えるのではなくて、もう少し深い分析ができるような形になったと思いますので、それは本当にそういう意味ではよかったなと思っています。

あとは、どういう属性の学生なのかということもこれからこういった形で分析ができていくのではないかと思います。どこまで個人のデータを取るかというのは、限界もありますけれども、例えば私の学部は経済学部なのですが、経済学部ではない理系の学部生とか、あと、例えば文学部の学部生とか、そういった方々がどういう状態でどうなるのかというのはひょっとすると違いがあるのかもしれないので、そういったところに、今回、こういう形で一回、IDを振ってやってみたのですが、分析のツールをもう少しうまく活用できるというかなと思った次第です。

以上です。

○上田座長 ありがとうございました。

私も関連して、同じような意見を持っております、どちらかというと、社会科学系の

学部の学生はこういうことに触れる機会が多少なりともあると思うのですが、人文系とか、あるいは理系とか、あと、体育学部の学生は、卒業までにこういう年金とか社会保障に触れる機会はほぼないと思いますので、今、こちらのほうに実施校を書いているのですが、例えば学部を書き添えて、できるだけ学部の広がりもあるような形にさせていただけたらいいのかなと思っております。

ほかの皆様、いかがでしょうか。よろしいですか。

事務局のほうから特によろしいですか。

○安済年金広報企画室長 はい。

○上田座長 それでは、私も申し上げたのですが、いただいた意見をいろいろ御検討いただき、またより深化した取組をお願いできたらと思います。

続きまして、議題3の若年層を対象とした年金広報の取組について、事務局から御説明をお願いいたします。

○安済年金広報企画室長 それでは、資料3の「若年層を対象とした年金広報の取組について」の資料を御覧ください。

資料の2ページ目です。「インフルエンサー等を活用した周知・広報」につきまして、これは前回の資料になりますけれども、こちらを一部改変したものです。こちらから提出した資料の中でそれぞれ、目的、対象、手段、テーマ案について記載した資料を出させていただきました。

前回の年金広報検討会の中でいただいた御意見といたしまして、それぞれ読み上げさせていただきますと、1つ目がフォロワー属性、ふだんの発信内容とのコンテンツ親和性、人間的信頼関係が極めて重要であるということ。2つ目ですけれども、インパクトが強いが「面白かった」で終わる可能性が高い。教育現場では、情報をうのみにせず、正確性や多角的理解につなげられるかが重要。3つ目ですけれども、ターゲット設定が粗い。具体的なペルソナ設定が必要。4つ目、課題（ペイン）を先に社会に認識させるその後に解決策を提示するというPR設計がある。「どう話題をつくり、広げるか」という設計が重要。最後のポツですけれども、炎上のリスクを十分認識し、炎上対応やリスク評価の専門的知見を持つ委員とも連携しながら、慎重に進める必要があるというような御意見を頂戴しております。

こちらを踏まえまして、私どもそれぞれ、これは再度、インフルエンサーについての整理をし直したというのが次の4ページ以降の資料となっています。資料の4ページ目ですけれども「インフルエンサーを活用する理由」といたしまして、こちら、改めて整理をし直しています。

まず、1つ目の◆ですけれども、若年層につきましては、テレビ・紙媒体よりもSNSを主たる情報取得手段としておりまして、従来型の広報では十分にリーチできていない可能性があると考えております。特に年金制度については、制度が複雑といわれています。そして、自分事として認識されにくいといった理由から、自発的に情報に接する機会が限定的

となっております。

このため、若年層が日常的に接しているSNS上において情報提供を行うことが有効と考えております。また、信頼性や親和性の高い発信主体となるインフルエンサーを設定しまして、活用することにより、フォロワーとの関係性に基づく高い訴求力や、コメント等を通じた双方向的な関心喚起ができると考えております。

このようなインフルエンサーの方々を活用することによりまして、若年層の方々に対して公的年金制度の概要、意義、役割等を知るきっかけを提供するということを目的と考えております。

続きまして「ツールの選定理由及び効果測定について」です。まず、ツールといたしましてはInstagramを利用することを考えております。Instagramを利用する理由といたしましては、特に10代、20代の方々の利用率が高いというところです。加えまして、画像＋キャプションがベースで、視覚的なアプローチが可能であるということ、ターゲット層に届きやすくすることも可能と考えております。

効果測定につきましては、スライド9で議論したいと考えております。

続きまして「インフルエンサーの選定基準」です。インフルエンサーの方々を選定させていただく際には、公的年金制度の概要、意義、役割などを知るきっかけを提供できるような信頼性や親和性の高いインフルエンサーを選定できるように、以下のような基準を設定しております。フォロワー数につきましては、5万人以上10万人以下の方。ふだんから社会保険や金融についての情報を発信しているなど、年金制度について発信するのにふさわしい方。国民年金保険料及び厚生年金保険料等の租税公課の未納がない方。公的年金制度の不名誉となるような行為をしない方。厚生労働省情報セキュリティポリシー、各SNS利用規約、その他の関連法令等を遵守する方というような選定基準を設けております。

続きまして、前回の広報検討会の中で、コンテンツ親和性とペルソナ設定につきまして御指摘いただきました。こちらはそちらを踏まえました資料となっております。

まず、こういった公的年金についてのテーマにつきましては、専門性が高く誤解を招きやすい特性や炎上リスクを踏まえると、なかなか適切に対応可能なインフルエンサーの自体が少ないと考えております。

こういったことから「コンテンツとの親和性」をまずは優先軸として考えた上で、事後的にペルソナ適合性を確認するという2段階のアプローチを取っていきたいと考えております。1つ目のところですが、年金に関する情報発信を適切に行うことができる複数のインフルエンサーをまずは抽出したいと考えております。その上で、インフルエンサーのフォロワー属性や投稿に対する反応というものを分析いたしまして、その後に、実際にどのペルソナ層にリーチしているのかについて検証していきたいというような考え方で進めていきたいと思っております。

こうした設計をすることによりまして、情報発信による齟齬でありますとか契約不履行のリスクを低減しつつ、本事業の目的である「若年層に対する認知向上」を、より確実に

達成できるものと考えております。

続きまして、炎上リスクへの対応でございます。炎上リスクへの対応といたしまして、まず、炎上リスクが相対的に高いと認められる方については提案段階で除外するというところでございます。その上で、必要に応じて契約相手方の法務チェック体制というものを活用いたしまして、発言内容の適法性や妥当性の確認を行いたいと思っております。また、投稿内容につきましては、基本的にはインフルエンサーの方にはお任せするということにはなるのですが、必要に応じて事前に有識者の方々の御助言を仰ぐなどさせていただければと考えております。

仕様書におけるインフルエンサーの要件につきましては、保険料の未納がない方、租税公課の未納がない方、公的年金制度の不名誉となるような行為をしない方々といった要件をしっかりと規定したいと考えております。

こういった対応を行うことによりまして、発信に伴うリスク低減を図るとともに、公的施策としての信頼性を確保することを目的としたいと考えております。

本日、特に御意見いただければと思っております事項についてです。こちらはInstagramを活用するということで収集できる指標といたしまして、こちらに記載してございます。こういった指標の中のうち、こういったものが効果測定としてふさわしいのかにつきまして御助言いただければと考えております。

そのほか、全体を通じ留意すべき点やお気づきの点などがございましたら、御意見を賜れば幸いと考えております。

事務局からは以上となります。

○上田座長 御説明ありがとうございました。

それでは、この議題につきまして、御意見ございましたら御発言をお願いしたいと思います。

まず最初に、この書かれてございます指標のうち、どの指標を効果測定に用いるのが適切か。この辺りを中心に御意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

上村先生、どうぞ。

○上村構成員 難しいですね。インフルエンサーの利用は、本当にこの時代なので、それはいいと思うのですが、年金制度の概要、意義、役割を知ることに対して、どう効果測定ができるかということですね。

それで、インフルエンサーに対する反応なのか、内容に対する反応なのかを判別するのは非常に難しいなと思っています。あと、それが判別できたとしても、年金制度の概要、意義、役割を知るところがどこまで分かるのかはかなり難しいなという、それしかないのですけれどもという感じですね。

あとは、難しいのはしようがないとして、インフルエンサーの方をお願いするときは、やはり年金制度の概要、意義、役割を知っていただくことが大事ですということの事前の打合せといいますか、コンテンツはインフルエンサーの方がつくるといことなのですね。

れども、それが目的なのですということはきっちり知っていただく、事前にきっちり共有しないとそういった形にならないのかなとは思っています。

すみません。だから、あまり回答といいますか、いいアイデアとか、これがいいですということをばしっと言えなくて申し訳ないですけれども、今、そういうことを思いました。ほかの委員の方の御意見を聞いて、また意見するかもしれません。

○上田座長 ありがとうございます。

ほかの皆様、いかがでしょうか。

山口先生、何か御意見ございませんか。

○山口構成員 山口です。ありがとうございます。では、私のほうから少しだけ。

御説明いただきありがとうございました。私もインフルエンサーマーケティングは極めて重要だと思っております、と申しますのも、様々な連携の仕方があると思うのですが、最近の傾向として、このショート動画の威力というものが、去年とかも同じことを言っていると思うのですが、どんどん増しているのです。例えば今年2月の衆院選では、衆院選に関連するYouTubeの動画の再生回数が28億回と、2年前の衆院選の約10倍であるということが分かっていて、特にその中の大半を占めていたのがショート動画だったということが分かっておりますので、今、このショート動画がすごく届きやすい。後ほど漫画とかの話も出てくると思うのですが、今、例えば漫画とかというものの文字が多くて読めないとか、そのレベルなのです。一方、このショート動画というものはずっと入ってくるので、特に若い世代を中心に届きやすいというところで、インフルエンサー掛けるショート動画とかというところは非常に重要なことと思っております。

この御質問に答えるならば、例えばリーチ数とかエンゲージメント数というものは特に見られやすいところなのかなとは思いますが、どの数字も結構重要だと思うのですが、一つ大事な点として、最近の傾向としてアカウントのフォロワー数というものは結構どうでもよくなってきて、どうでもよくなるのは全然ないのですが、ただ、昔に比べるとそこまで相対的に重要性は落ちてきていて、なぜかと申しますと、今、アルゴリズムによってフォローしていない人の投稿がいっぱい出てくるのです。Xとかもそうですけれども、こういう世界観になってくると、いかにアルゴリズム上、しっかりと多くの人に優先的に表示されるか。こちらを狙っていくのが大事だということになってきますので、戦略が変わってきた。フォロワー層を地道に増やして、そのフォロワー層に届けるということではなくなってきたとは思っておりますので、その辺りのアルゴリズム戦略というものが大事になってくるのかなと思います。

もう一つが、炎上対策というところで申しますと、もちろん、リスクの低い人を起用する。これは当然なのですが、例えば最近の事例で申しますと、ある人気アイドルの方がテレビの生放送中に急に不適切な発言をしたのです。それでネット上ではすごく話題になってしまったのですが、その直後にそのアイドルの方をCMに起用している企業がその方を擁護しているかのような投稿をしてしまった。それは実際にどうだったかは分からないので

す。なぜかという、その企業は毎日のように、その時間に投稿しているので、タイミングがたまたま合ってしまったとか、そういったことも考えられるのですが、ここで申し上げたいのは、リスクが少なそうな人でも炎上することはあるのです。だから、その炎上したときに一体、省庁としてどのような対応をするのかということところはしっかりとマニュアル化しておくことが大事なかなと思った次第です。

私からは以上です。ありがとうございます。

○上田座長 ありがとうございます。

山口先生、すみません。そうしますと、今のお話の前半のほうなのですが、どの指標を効果測定に用いるのが適切かという、今、資料のところで9ページに掲示してあるのですが、特に重視すべき項目というものは何か御指摘ございますでしょうか。

○山口構成員 先ほど私が申し上げたとおり、私の感覚的にはリーチ数とかエンゲージメント数というものはよく用いられるなと思います。あとはエンゲージメント率とか、この辺りで、その下のものは、要するに細かい数字になってきて、その辺りを見ることもあるでしょうけれども、メインとなってくるのはやはりリーチ数とエンゲージメント数、エンゲージメント率。この辺りが大事になってくるかなと思います。

ただ、それも結局、何を達成したいかによると思いますので、究極的に言えば、例えば100万人に届いても、インフルエンサーのことは見てくれたのだけれども、内容は全然分かっていない。例えば年金について、何の理解も深まっていない。こういうものは結局よくないと思うので、Instagramの数字上はそういったところを見ますけれども、その上の、その先のところまで見据えて、何か考えていく必要があるかなと思います。

以上です。ありがとうございます。

○上田座長 すみません。ありがとうございました。

よく私などは、娘たちとか若い人たちから「いいね」を押してくれたと聞かれるのですが、これは「いいね」の数はあまり関係ないのですか。

○山口構成員 もちろん、「いいね」の数は大事ですので、エンゲージメント数にはそれが入っていますので、そういったものが総合的に入ってくるエンゲージメント数とかエンゲージメント率とかということところは大事なのではないかと思います。

下のほうに「いいね」とかりポストとか、いろいろありますけれども、そういったものをひっくるめてのエンゲージメントとなりますので、そこが大事なかなと思います。

○上田座長 分かりました。ありがとうございました。

ほかの皆様、いかがでしょうか。こういう検討会ですので、御遠慮なく率直な御意見をいただければと思います。

横川さん、どうぞ。

○横川構成員 すみません。今、効果測定のお話ですね。

○安済年金広報企画室長 そうです。

○横川構成員 では、その下のその他のときに発言いたします。

○上田座長 効果測定については、皆様、特にほかに御意見ございませんでしょうか。

では、効果測定も含めて、全体を通じて御意見ということで、横川さん、お願いいたします。

○横川構成員 御説明いただきありがとうございます。

先ほどインフルエンサーで発信される方の基準みたいなページがあったかなと思うのですが、今、そちらで条件に入っていたのが、ふだんから社会保険、金融について情報発信しているなどというところが入っていたのですけれども、若い世代に知ってもらうに当たって、多分、こういう金融系の発信をされている方の投稿をふだん見られている方はそもそも、結構、リテラシーがあったりとか、金融とか制度について感度が高い方なのではないかなと思っており、若年層向けの発信は、それもそういった既に知識がある方に向けての発信ももちろんいいと思うのですけれども、やはり若年層に向けて発信するという課題であったりの目的の一つに、あまりまだ知識がなかったり自ら知ろうとしていない層に届けるというところだったり、そこが課題なのかなと思った場合に、金融界隈かいわいとか、あえてふだんはそういう投稿をされていない方とかに、専門家ではない別ジャンルの、例えばエンタメ系とかライフスタイル系とか、何でもいいと思うのですけれども、そういった方に投稿していただくというところもまた新しいリーチ層に届ける意味では必要なかなと思いました。

やはりそういう、ふだんは全く違う発信をしている方だと、確かに親和性というようなことはないかもしれないのですけれども、新しい層に届けるとなったときは、結果的に無関心だった層にも振り向いてもらえる確率が増えるのではないかと思いますし、若年層は20代とか、高校生とか、大学生とか、社会人になりたてとかで多分、金融系のことをすごいキャッチアップしている人もまだ少ないのではないかと思いますので、年金制度に親和性があるというものと、届けたい人に親和性があるという選び方が2軸あってもいいのかなと思いました。

以上です。

○上田座長 ありがとうございました。

ほかの皆様、いかがですか。

ふだんから若い世代と接していらっしゃる植村先生、いかがですか。

○上村構成員 私ですか。

○上田座長 会場のほうの、漢字が違うけれども、読み方が同じですものね。すみません。

○全国家庭科教育協会・植村様 全国家庭科教育協会のオブザーバーの植村でございます。

今回の議題を拝見してからInstagramで年金などと検索すると、若年層向けというよりはむしろ、意外と私どもの40～50代向けの動画もかなり検索でき、Instagramは間口の広いものだなと思ったところです。

先ほどの内容と関連させて申しますと、動画を見て、面白かったで終わらずに、その後はどうつなげるかというものがなかなか測定的には難しいのかなと思っております。そ

の辺りの工夫を凝らしていただけるとありがたく思います。

以上です。

○上田座長 ありがとうございます。

そのほか、皆様、いかがでしょうか。

どうぞ。

○山下総務課長 すみません。年金局の総務課長なのですが、せっかくでございますので、構成員の皆様方にお伺いしたいのは、資料で言うと、前回の御意見のときに、炎上のリスクを十分認識してもらいたいということ。そのときには、炎上とかリスク評価の委員とも連携してほしいといただきました。確かになと思っていて、今日も御意見の概要を用意させてもらっているのですけれども、この炎上ということに対して、要はコンテンツを提供する年金局側としてどう構えていけばいいのか、少し何かアドバイスをいただければと思っています。

どういうことかという、もちろん、年金というものはとても関心の高いものなので、そういった面では皆の興味がある。もちろん、社会からするとおかしいことを年金局は言っているということであれば少し、私たちも感度をちゃんと正しく持ってやらなければならないのは自覚しているのですけれども、一方で年金では、言い方は悪いけれども、受け手の方が例えば誤解して、それで言ったことが大きく広がって、そういう形での炎上ที่เกิดขึ้นた場合に私たちはどうすればいいのか。つまり、炎上したからといって、すぐ出したものを引っ込めるというふうにすべきなのか、それとも、何か別に対応すればいいのか。何かそういうことで、例えば、今、言ったようなこととかも含めて、御経験に基づいて、教えていただければと思っています。

○上田座長 今の御説明に対しましては、皆様、いかがでしょうか。

山口先生、何かコメントいただけますでしょうか。

○山口構成員 ありがとうございます。

おっしゃるとおりで、今、炎上リスクは極めて重要なものでして、例えば2025年の炎上件数というものが1,543件なのです。これは一日にならずと一日4件以上ということですので、今日もどこかで誰かが燃えている。これが炎上の実態であるということが言えますので、今、リスクという観点で申しますと、この炎上というものは極めて大きい問題となっていると思います。また、この炎上が広がると、以前はそれほど社会的な影響は大きくなかった場合もあったのですけれども、昨今ですと、SNSが選挙に大きな影響を与える時代です。非常に影響力が増してきているということがありますので、これの対策をするというのは必須かなと考えております。

大事なのが、では、炎上したら全部謝罪して取り下げるのかとか、謝罪せずに取り下げるのかとか、いろいろ論点があると思うのですけれども、まず、その大前提です。判断に至るにはどうすればいいのかというところで申しますと、平時から専用のツールでモニタリングしておくということ。これは必須かなと思います。いろいろなツールがありますの

で、そういったものを使って、年金など、様々なキーワードについて、どんなふうにネット上で語られていて、それが例えば平時、通常時に一日100件語られています。ネガティブが80%でした。別に、これはいいのです。アンチもいるでしょう。ただ、それが急に100件が1万件になったら、これは問題が発生しているわけです。こういったところをしっかりとモニタリングしておくということが極めて重要です。

その上で、事実確認をして、対応すべきかどうかという判断が必要なわけです。つまり、これは例えばインフルエンサーに問題があったとか、表現に明らかに何かバイアスがあったとか、社会的規範に反する何かがあったとか、そういったことなのか、あるいは別に一部の人が誤解を基に盛り上がっているだけなのか。誤解を基に盛り上がっているのですから、正しい情報を迅速に出さなければいけないわけです。一方で、ただアンチが騒いでいるだけということもあるわけですので、では、アンチが騒いでいるだけだったら無視してもいいのではないかと、いろいろな判断のもととなるのがこのモニタリングかなと思います。

危機管理プランを整備しておくということも大事です。つまり、何か問題が発生したときに、どの部署がどんなふうに情報共有して、どんなふうに対応するのかということを実体的に定めておくということです。今、私はぱらぱらと場面ごとにどう対応するかという話をしましたけれども、そういったことをまさにマニュアル化しておくということです。

また、何かコンテンツを出すときには、必ずシミュレーションしておいてください。例えば動画であれば、この部分はこう捉えられるかもしれない、こう不快に感じる人がいるかもしれないというところはあるかもしれません。そういうときに、でも、ここから批判がついても、それは別に謝罪するようなことではなくて、こういうことでこれを出しましたとリリースしましょうとか、いろいろなパターンがシミュレーションしておくことによって事前に決められるわけですので、そういったことを事前しておいてから出す。

そうすると、あたふたと何か炎上したからすぐに取り下げてしまおうとか、そういったことにならないのかなと思いますので、平時からのそういった具体的な想定、取組、そして、モニタリング。こういったことが求められるかなと思います。

以上です。ありがとうございます。

○上田座長 ありがとうございます。

ほかの皆様、何かコメントございますでしょうか。よろしゅうございますか。

では、あとは残り、今の議題、インフルエンサーの利用について、あるいは若年層向けの効果的な情報発信全般について、何かございましたらコメントいただきたいと思います。

まだ御発言のない皆様、いかがでしょうか。

漆原さん、いかがですか。何か、特にコメントございませんか。

○漆原構成員 私も上田先生がおっしゃっていたように、炎上した後、どのような対応を取るのかということが非常に重要だと感じておりましたので、今、お話を聞きながら、私の意見というよりは、今後、そういった対策が必要になると共感していたところです。

○上田座長　ありがとうございます。

あと、皆様、特にこの議題について御発言は。

○上村構成員　よろしいですか。

○上田座長　どうぞ。

○上村構成員　上村です。

各省庁でインフルエンサーを使った広報をやっているところがあるのかないのか分からないのですけれども、ひょっとすると、財務省とかは税金関係でやって、国税庁とかがやっているかもしれないのですけれども、そういうところでもしも、どうやって調べるかは難しいのですけれども、何か炎上案件があったら、それはどういう状態で発生したのか。あと、自治体は結構、インフルエンサーを使っていますので、自治体で何か炎上とかが起こった事例とか、もしも調べるのだったら調べて、どういう形で形成されたのかというのは分析されたらどうですか。

ひょっとすると、山口先生がこういうものに詳しいかもしれませんが、要は国がやっているということは、これは表に出るわけですね。多分、厚生労働省のCMとして発信しますという形でそういうものが出ると思うのですけれども、そういう形で出たときにどういう形で炎上するのかというものは研究する必要があるのかなと思った次第です。

以上です。

○上田座長　ありがとうございました。

そのほか、御意見よろしいでしょうか。

事務局のほうから何かコメントございますか。

○安済年金広報企画室長　ありがとうございます。ほかの役所の事例は、私も確認したわけではないのですけれども、調べさせていただいて、他山の石とさせていただければと思います。

あと、山口先生から動画というところもございました。今回は動画ではなくて静止画だけでと考えてはおるのですけれども、今回試行的にやってみて、反響なども踏まえながら、今後の新しい展開を考えていければと考えております。いろいろ御意見いただきましてありがとうございます。

○上田座長　ありがとうございました。

それでは、いただきました御意見、特に炎上対策等につきましては十分対策を打った上で取組を進めていただければと思います。

続きまして、議題４の年金に関する情報の整理について、事務局から御説明をお願いいたします。

○安済年金広報企画室長　資料４を御覧ください。「年金に関する情報の整理について」でございます。

資料の２ページ目を御覧ください。「１　課題」として、これまでの年金教育に関する議論を主に振り返ったところ、年金に関する情報については、整理・一本化や、関係機関

との連携強化が望まれているのではないかと考えております。主な御意見については省略させていただきます。

3 ページ目を御覧ください。そういった御意見を踏まえながら、私どもの広報をしておりますツールであります年金広報Webページを見てまいりますと、現状、厚生労働省ホームページの年金広報Webページにつきましては、作成したコンテンツを分類せずに上から順に並べているような状況となっています。スクロールが長くなっているため、コンテンツを整理して掲載して、アクセシビリティの向上を図る必要があるのではないのかと考えております。

資料を画面分割 1、画面分割 2 という形で現行の厚生労働省のホームページを、以下、記載しております。

画面分割 3、画面分割 4 が続きまして、画面分割 5、画面分割 6 まで続いていくという形になっております。

ここまでが厚生労働省のホームページの話で、次に、資料の 6 ページ目になります。こちらは「わたしとみんなの年金ポータル」につきましてです。当該ポータルサイトにつきましては、年金制度や手続、退職後の資産形成などの年金に関する情報を個人のライフスタイルに応じて簡単に探せるようにするための情報入り口といたしまして、2019年 4 月 16 日に開設いたしました。

開設した背景ですけれども、当時、詳細かつ正確なコンテンツにたどり着けていないといった課題。それから、新しい理解や課題の解決には至っていない。ほかのホームページがあるのですけれども、加えて、様々なコンテンツがある中で連携が図られていないため、分かりやすい有益な情報が埋もれてしまっているというような問題点がございました。

これに対し、当時新しくつくった年金ポータルの基本コンセプトといたしましては、年金制度に興味や疑問を抱く層に対応するための入り口として、必要な情報を集めるということ。そこに簡単な内容を載せた上で、詳細については各関係団体様のページに遷移して確認できるようにするサイトとしております。また、ライフスタイルを主軸といたしまして、閲覧者自身の境遇に合わせた疑問に対する「わたしの年金」という軸と、それから、私たちが加入している年金について正しく理解することを目的とした「みんなの年金」という 2 つの軸でカテゴライズされたページとなっております。

7 ページ目でございます。こちらは「わたしとみんなの年金ポータル」の現状となっております。

続きまして、8 ページ目です。こちらは「わたしの年金」のより詳細な概要となっております。左側がそれぞれの構成が記載しておりまして、問いと、それから、問いがさらに細分化されたものとなっております。

右側に、ウェブページの例となっております。具体的な例といたしまして「なぜ、20 歳から国民年金に入らなければいけないの？」ということで質問があって、水先案内人から回答という形で書かせていただいて、その後、詳細については関係機関のホームページに

飛ぶというような流れになっております。

「みんなの年金」も同様のコンテンツとなっております。

特にこの中で取り上げたいと考えておりますのは、年金教育に係る部分でございます。学校で学ぶ教材や年金セミナーに関する項目につきましては「第二章 みんなの年金」の「Topic 7」の1つ目の質問に設けられております。厚生労働省と日本年金機構の年金教育コンテンツを掲載しているウェブページのリンクが掲載されているというような流れになっております。

これまでがコンテンツについてでしたけれども、アクセス数について見たものが次の11ページになってございます。平均月当たりアクセス数は、2022年4月から2026年5月まで約3,800回となっております、直近1年間は約2,900回と緩やかに減少から横ばいの状況というようになっております。

こうした厚生労働省の年金広報Webページと年金ポータルにつきまして、位置づけと課題、それから、改善案を整理したものがこちらの資料になっております。位置づけについては今まで説明させていただいたとおりです。課題の部分ですけれども、年金広報Webページについては、非常に見づらくなっているということです、改善案といたしましては、掲載情報を対象者及び内容ごとに分類して掲載いたしまして、ユーザーの利便性を向上したいと考えております。アイコンを用いるなど見やすさやデザイン性を向上させていきたいと考えております。年金ポータルですけれども、まず、年金教育に関する情報が必ずしも十分ではないと考えております。そこで、年金教育に関する項目を冒頭のPICK UPに追加するということや、他の機関の年金教育教材、それから、取組に関する情報も掲載していきたいと考えております。

次の資料を御覧ください。年金広報Webページの修正案を示させていただいております。それぞれ対象者や内容ごとに分類いたしまして掲載したいと考えております。共通したアイコンと画像で分かりやすく表示するとともに、ファーストビューの部分で重要項目が目に入るようにし、新着情報は直近のものに限定して、各項目を分割して掲載していきたいと考えております。

以下、画面分割1～5という形で、それぞれ項目ごとに分けたものを記載しております。

資料の16ページ目を御覧ください。「わたしとみんなの年金ポータル」の修正案です。最初のページで「PICK UP 6」といたしまして、年金教育教材と年金対話集会・年金セミナーに関する情報が最初のページで分かりやすく設置したいと考えております。リンク先につきましては、現行のリンクに加えまして、その他の関係機関の皆様が作成していらっしゃる年金教育に利用可能な教材や、学校現場を訪問して実施している取組に関する情報の掲載を検討しております。

御助言をいただければと考えております事項を次の17ページに記載しております。まず、年金広報Webページですけれども、コンテンツの分類方法はこういった形で適切なのかということ。それから、画面デザインにつきましては、利用者が必要とする情報に円滑にた

どり着くことができるようにするためには、どのような対応が考えられるのかというような部分につきまして御助言をいただければと思っております。

年金ポータルの部分でございます。年金ポータルにおいて、年金教育に関する情報をどのように掲載すべきなのかということについて御助言を賜れればと思っております。それから、年金ポータルの認知度を向上させるためには、何か手法がございますれば御助言をいただければと考えております。最後の部分ですけれども、AIを活用した情報検索が一般的になりつつある中で、年金ポータルが今後、どのような役割を果たしていくべきなのかという部分についても御意見をいただければと考えております。

事務局からは以上となります。

○上田座長 御説明ありがとうございました。

それでは、ただいまの御説明内容につきまして、皆様から御発言をお願いできたらと思います。いかがでしょうか。

どうぞ。

○全国家庭科教育協会・植村様 上田先生、下の話題でも結構ですか。

○上田座長 どうぞ。

○全国家庭科教育協会・植村様 全国家庭科教育協会のオブザーバーの植村です。年金ポータルの話題についてです。大学ではなく、初等・中等教育の学校現場での活用という点でお願いを申したいのです。

現在、文部科学省の中央教育審議会では次の学習指導要領に向けた検討が進められています。その中で高等学校の家庭科については、社会保障や奨学金などの社会制度の活用というものを生活設計と関わらせて扱うことが示されているのです。また、生活リスクの管理と社会保障を扱うという方向も示されているのです。この方向性は、こちらで話しているような年金教育を単なる制度説明にとどめないものと、軌を一にするものだと思っております。その意味で、この年金ポータルに年金教育の教材や関係機関の取組を整理して載せていただくという方向に大きく期待しております。一方で、浅川構成員、あるいは我々も以前に話題にしましたが、学校現場には金融経済教育ですとか消費者教育に関する教材がいろいろな団体から既にたくさん提供されているので、課題は教材不足ではないのです。限られた授業時間で生徒の実態に合わせて、どの教材をどう組み合わせればよいかというものを選びにくいということなのです。

そういうことで、先ほどの資料の10ページにあるように、今後、いろいろな関連団体の教材を集めてくださるということですが、単なるリンク集ですと、例えばこれに関しては「QuizKnockと一緒に年金を知ろう！」というものを、では、中身はどんなものをわからないままに授業前に教員が最初から最後まで見る必要が生じます。もちろん、教材研究としては視聴が必要なのですが、どの教材に何が出ているかというものが分からないとなかなか利用に踏み切れないというところがございます。今後、年金ポータルにリンクなどをつけていただく際は、コンテンツごとのものではなく、例えば小・中・高の学校種ごと、

学校段階ごととか、あるいは教科ですと家庭科ですとか、公民科ですとか、総合的な探究の時間。このような場所に使えるとか、あるいは時間なども測ると10分の導入で使えますとか、このテーマだけについて20分ぐらいで使えますとか、場合によっては50分丸々使えますとか、そういった説明が載っているととても使いやすくなると思うのです。テーマ別の整理については、資料の9ページのような分類でもいいので、それらのものがどんな教材に結びつくかが整理されていると教員としては非常に使いやすくなると思います。

関連団体ということですがけれども、本日、J-FLECさんがお見えになっていて、J-FLECさんの教材でも公的年金に関わる部分もございますし、それ以外に生命保険文化センターさんでは生活設計の教材を出していらっしゃるって、そこには公的年金の問題が載っております。そういったものを使って生活設計を組み立てていくという教材もございますので、そうした教材と連携しながら、公的年金の正確な情報というものは年金ポータルに戻れば確認できるというような入り口として年金ポータルを整備していただくととてもうれしいです。

もう一つ、併せて申し上げたいのですがけれども、こういった授業を行う教員向けの支援についてもぜひお願いしたいのです。授業を担当する教員自身が公的年金を自分事として理解して授業に落とし込むという機会がまだ十分とは言えていないのです。かく言う私自身も、公的年金を授業で扱うようになってからねんきん定期便を確認するようになりましたし、あるいはもう少ししっかりとしたライフプランを立てるには退職金は幾らなのだろうかと、勤務先で退職金の概算額を試算していただくということもするようになりました。そういった経験を得て、ようやく自分事として年金を生徒と一緒に考えることができるようになってきましたので、この年金ポータルでの生徒向け・学生向けの教材の充実と併せまして、教員向けの研修についても関係団体と御協力の上で御考慮いただけるとありがたいと思います。授業を担当する教員が自分自身の生活設計を確認しながら年金を学べる機会があると、授業での扱いもより具体的になるのではないかと思います。

長くなりました。以上でございます。

○上田座長　ありがとうございました。

ほかの皆様、いかがでしょうか。

漆原さん、どうぞ。

○漆原構成員　上田先生、両方についてお話ししてもいいですか。

○上田座長　どうぞ。

○漆原構成員　改めまして、社会保険労務士の漆原香奈恵と申します。

まず、年金広報Webページについてですが、年金広報Webページは、個々のコンテンツは非常に充実しているところですが、一方で利用者から見ると、どこから見ればよいのか分かりにくいような画面になっている部分もあるかと思います。そのため、ファーストビューには、まず知ってほしい基本情報とか、あと、公的年金シミュレーター、年金教育教材やインフルエンサー動画などといった、関心を持ちやすい入り口を配置することで、初め

て訪れた方も分かりやすいページになるのではないかと思います。

また、学生、教員、企業といった対象者別、今、修正案で出ているようなものに加えて、加入する、納める、受け取る、相談するとか、試算をする、学ぶといったような目的別の整理にされるというのも必要な情報にたどり着きやすくなるのではないかと考えます。

年金ポータルについて、先ほどの植村先生のお話と重なる部分も出てくるのですが、リンク集ではなく、国民が必要なときに正確な公式情報へたどり着くための信頼できる入り口として位置づけていくことが重要だと思います。特にAIが正しい情報を正確に読み取れるようなFAQとか解説テキストを構造化データで整理しておくことなども求められるのではないかと考えます。

また、修正案の「PICK UP 6」、年金教育特設エリアの新設に賛同します。学ぶ人、教える人、企業研修で使う人に例えば分けるなどをして、15分動画、ワークシートや年金セミナー情報に加えて、他の機関などの優れた教材も横断的に参照できる形にすると、より活用しやすくなるのではないかと思います。

さらに、年金は老後のためだけではないという、公的年金を人生のリスクに備える保険として見せる構成が大切だとも考えています。老齢・障害・遺族年金を受け取ることと、加入する、納めることをリンクさせることで負担に対する納得感も出ると思います。受け取ることと納めることを交差させ、日常の言葉、例えば病気で働けなくなったとか、家族が亡くなった、転職・退職したというようなつながる動線を設けて交差させることによって、給付と負担のつながりや、現役世代から老後まで関係する制度であるということが伝わりやすくなるのではないかと思います。

最後に、年金ポータルを確認したときに、画面デザインの画像と文字が結びついていない部分があり、そういったところの見直しとか、文字中心のバナーを並べるのではなくて、例えばスマートフォンのホーム画面のように、動画、シミュレーター、教材、FAQ、相談先が一目で分かるようなアイコン型にするとか、若年層も普段使うウェブサービスの感覚で情報に触れやすくなるようなデザインにされるのもいいのかなと思いました。

私からは以上になります。

○上田座長　ありがとうございました。

宮田先生とか浅川先生は、御参加は。

○事務局　宮田先生は参加されています。

○上田座長　宮田先生、ふだん、生徒を教えていらっしゃる立場から何かコメントがもしございましたらお願いいたします。いかがですか。

○全国家庭科教育協会・宮田様　こんにちは。宮田と申します。

私のほうからは、植村先生が先ほど言ってくださったことと重複するのですが、やはり教材の整理にとっても期待しているところです。どこに行けば何が見られるのかというところが分かりづらいので、短時間で生徒たちが視覚的に理解できるようなものがあると非常にありがたいなと思います。先ほど漆原さんもアイコンとおっしゃっていただけ

れども、アイコンでぱっと見て使えと、活用の仕方変わってくるかなと考えます。

以上です。よろしくお願いします。

○上田座長 ありがとうございます。

そのほか、皆様、いかがでしょうか。

山口先生、どうぞ。

○山口構成員 山口です。御説明いただきありがとうございます。

まず、今回の論点の2つの年金広報Webページのほうからなのですけれども、方針はよく分かりますし、分類したということ自体が適切かなと思います。

ただ一方で、年金について疑問を抱く人というものは課題とか疑問を持っているわけですよ。その人たちというものは別に属性といいますか、課題・疑問で知りたいのだろうという、例えば保険料に関して払えないとか、あるいは転職しましたとか、いろいろ悩みがあると思うのですけれども、そういったようなときに選択することが難しいかもしれない、つまり、属性軸だけだと迷うかもしれないので、整理するに当たって属性はすごくやりやすいのですけれども、そうでない視点、課題とか疑問視点でつくったほうがもしかしたらユーザーフレンドリーかなとは思いました。両方あってもいいのかもしれない。

また、このポータルサイト、ポータルについては少ないですね。中身というよりは、そもそも流入があまりに少ないなというのはかなり課題としてはあるかなと思っていて、直近1年で月平均で3,000回を切っていたりするということは入り口として可視化されていないのかなと正直感じました。これは中身を何かアップデートしたりとか、あるいは再編したりとかというだけだと解決しないのかなと思いますので、まず一つ、認知度向上という観点で申しますと、やはりポータルをポータルとして宣伝するというよりは、既に人がいるというところに、そのタッチポイントに動線を置くことのほうが大事だと思います。

つまり、ねんきん定期便とかねんきんネットとかいろいろある、シミュレーターの結果ページとかでもいいのですけれども、あるいはQuizKnockさんの動画とか、そういったところの概要欄とか説明欄とかに入れていくというのが一つやり方としてはあるかなと思います。また、Q&Aとかというものは検索と非常に相性がいいので、SEOで検索の流入を取りに行くというところでQ&Aに力を入れるとかというのもあるかなと思いました。

あとは、私が最近感じているのが、急速に日本でも生成AIの普及が進んでいて、海外に比べるとまだまだなのですけれども、ただ、それでも利用者数は急増している。そういった中で、明らかに検索の仕方が変わっているわけです。検索サービスで検索する、ググるという時代からSNS検索になって、その後、さらに今はAI検索の時代なわけですよ。そういうことを考えますと、このAI検索が恐らく今後は主体になっていく中で、そのAI検索時代のポータルの役割は何かということを考える必要があるかなと思います。

つまり、人が見に来る目的地、ポータルというところから、AIが引用する、信頼できる一次情報源。ここになっていく必要があると思うのです。ありがたいことに、普通の企業だったら例えば流入とかがすごく気になると思うのですけれども、正しい情報が伝われば

いいわけです。そういうことを考えますと、年金というものは一番誤解が広まりやすい。だったら、だからこそ、このAI検索時代にAIが正しい情報を持ってきてもらう・学習してもらう。それがすごく大事なわけですよ。

ですから、このAI可読化ということをコンテンツですていくことが大事で、構造化データを使ったりとか、あるいは引用可能な、明確なQ&Aにするとか、つまり、PV数とかクリック数を獲得するということから、AIが正しい公式情報を引用できる状態を常に構築しておくということ。ここに行くのが大事かなと思いました。

あとは、誤解が広まって炎上することが度々あるわけですがけれども、それを先回りで打ち消すようなコンテンツを拡充するとか、あるいは広まってしまった、何か誤った情報に迅速に打ち消し情報を出すようなところに特化したページを用意するとか、例えば私がデジタル広報フェローを務めている東京都では「#TOKYO_CORRECT」というものを用意していて、東京都に関する何か変な情報が流れたとき、正しい情報を迅速にそのハッシュタグで発信するというをやっていて、そのハッシュタグを見れば事実が見られますし、また、それがウェブサイトとも連動しているのですよ。こういったような取組もあり得るのかなとは思いました。

私からは以上です。ありがとうございます。

○上田座長 ありがとうございます。

そのほか、御意見、いかがですか。

では、私からも皆様の御意見を踏まえて感想を述べさせていただきたいと思うのですが、今、山口先生が御指摘になられたように、AIに正しい年金の知識を取得してもらうというのは大変重要なポイントかと思います。私が大学で担当する科目でも学生に発表を課する授業があるのですがけれども、ほぼAIを使って調べて、場合によってはパワーポイント等の発表資料もAIを使ってつくってくる学生が非常に多いです。これはAIに間違った知識が入っていると根本から間違ってしまうので、これはいかにAIに正しいものを学習してもらうか、どうやって拾ってもらうかというのは一つの重要なポイントになるのではないかと考えております。これが第1点目。

それから、2点目は、先ほど植村先生から御指摘があったこと、宮田先生からのお話は全く私は同感でございまして、教員の立場からすると、いろいろな動画とか年金に関する資料がたくさんあります。どれを使っていいのか、授業を組み立てる際にやはり内容と、あと、例えば動画であれば時間を確認するのが授業の組立てを考える際に非常に重要になってくると思います。

この際には一つは、例えば動画であれば、よく映画などの有料で購入する前にダイジェスト版というものがあるのでありますが、それを例えば各動画につけるとか、あるいはどういう内容であるかが簡単に分かるようなものをつけておくようなものも一つやり方としては必要かなと思っています。

あと、資料について、今回、いろいろな厚生労働省の関連団体については資料を一覧で

まとめていただいているのですけれども、そのほか、植村先生御指摘のように、今日おいでいただいているJ-FLECさんからも多くの動画や資料が出ておりますし、あと、例えばiDeCoの公式サイトにも様々な動画が載っていますし、例えば確定拠出年金などでいくと、東京証券取引所のホームページにも確定拠出年金とはこういうものだ動画が載っていたり、あらゆるところにいろいろな機関がいろいろな動画や資料を掲載していますので、省庁間を超えることでなかなか難しい一面はあると思うのですけれども、そういった一覧性を持った調整も必要なのではないかと思います。

大学の図書館ではウェブ図書館というものがあって、図書館に行かなくても本棚そのものがバーチャルで見られるようなものがあって、カーソルをその本に合わせると内容とか簡単に粗筋がぱっと出るようなものがあるので、例えばポータルの中でそういった機能を考えて、一覧でぱっと図書館の本棚のものがあって、ぱっと並んでいて、コンテンツにカーソルを合わせるだけで概要がぱっと目に入るようなものがあるとすごく便利ではないかと思いました。

あと、最後に1点、植村先生からの御指摘があったように、今度、学習指導要領の改訂があると恐らく、こういう社会保障についても、今度、深く取り上げることになると思うのですが、以前、この検討会で申し上げたのですけれども、私が以前、家庭科と公共の主要な教科書や資料集を調べたときにはかなり古い資料が掲載されていたり、年金の概念図も前回の制度改定の前のものだなというものが載っていたりするので、この辺り、教科書の作成会社に直接アプローチするのがいいのか、あるいは文科省と調整するのがいいのか、分かりませんが、省庁を超えることで難しい一面はあると思いますが、この辺りもぜひ心に留めていただければありがたいなと思っております。

長くなりましたが、以上です。

あと、この点につきましては、そのほか、いかがでしょうか。

J-FLECさん、せっかくおいでいただいているので、もし何かコメントがあれば。

○金融経済教育推進機構・坂下様 J-FLECの坂下です。今回はオブザーバーとして初参加させていただきます。よろしくお願いします。

先ほどお話がありました年金ポータルに関して、私どもの情報を掲載・連携していただくかどうかという点については、この場ないしは事務局の方が御議論されるということかと思っておりますが、私どもの立場からすれば、以前、岩渕から御説明させていただきましたように、教育機関の皆様、あるいは事業者の皆様に講師を派遣して行う授業・研修では、金融リテラシー・マップに沿って実施しておりますので、その中には社会保険とか年金の内容も含まれておりますけれども、そうした中で、年金ポータルで年金について御理解を深めていただいた方が、では、生活設計全体とか資産形成をどうすればいいのだろうと、そういった面にも関心を持っていただき、年金ポータルを通じてJ-FLECの活動を知り、J-FLECを御活用いただくこととなれば、国民の皆様の金融リテラシーの向上に資することかと思っておりますので、今後、そうした話になってきた場合には、御議論をさせていた

だければと思っております。

あと一方で、これは私の個人的な印象ですけれども、年金ポータルにおいて、様々な機関の情報を掲載・連携することとなった場合には、制度などが変わると、それぞれの機関の資料もリバイスされ、それを踏まえて年金ポータルで掲載している情報もリバイスするといったような作業も必要になってくるかもしれませんので、そうしたときに、ここはリバイスできているけれども、ここはリバイスできていないみたいなこともあり得ますので、そういった作業の負担も勘案しながら設計していくといいのではないかと思います。

以上です。

○上田座長 ありがとうございます。

そのほか、皆様から御意見ございませんでしょうか。

富岡さんは特によろしいですか。

○全国社会保険労務士会連合会・富岡様 全国社会保険労務士会連合会 副会長の富岡です。よろしくお願いします。

これまで皆さんの御意見をお伺いして、我々社労士が企業の事業主や従業員の方たちから日々質問を受け、相談に応じているようなことがこの年金ポータルに掲載されており、これをいかに広く周知できるかということ、この場で議論されていると思っております。

例えばですけれども、近年の社会保険の適用拡大によって、今まで厚生年金保険に入らなかった人、あるいは入れなかった人が入れるようになりましたというこうした流れの中で、適用対象となった企業の事業主、従業員の方たちに厚生年金保険に入ることがどういうことかということをつかりやすく周知させる方法が議論されております。私は群馬県社労士の会長のを務めておりますが、現状では群馬県の中小企業の事業主や従業員の方たちは情報収集ツールとして年金ポータルを使うという手段を選んでいないように感じており、いかにこうしたところに広報ができるかということがこれからの課題かと感じております。

一方で我々社労士の難しいところは、そういった相談を受けた際に、厚生労働省のホームページで調べれば分かるというような指導は行わず、我々の能力で解決してあげたいという立場なのです。ですので、本日の資料を公開してよろしければ、群馬県社労士の理事等に、厚生労働省がこうした取り組みを行っているのだけれども、みんなで一回見てもらえないだろうか。社労士がこうした年金ポータル等を活用する方法としてはどんなものがあるかという意見を聞いてみようかと思っております。

せっかくの年金ポータルが活用されることが望ましいと思いますので、本日の皆様のご意見も参考にさせていただきました。ありがとうございます。

○上田座長 これは御活用いただいて全然構わないと思いますので、ぜひそういう方向でお願いできればと思います。

そのほか、皆さん、御意見よろしゅうございますか。

あと、事務局のほうからは何か、特によろしいですか。

○安済年金広報企画室長 様々な御意見をいただきましてありがとうございます。

まず、こちらの「わたしとみんなの年金ポータル」につきましては、特設サイトですので、どこまで改修できるかというところはあるのですけれども、今回いただいた御意見も踏まえながら、できる限り活用しやすいような形にできるように改善できればと考えております。

厚労省のホームページにつきましても、様々な御意見をいただきましてありがとうございます。こちらにつきましても、今回、こういう案で示させていただいておりますけれども、もう少し分かりやすい切り口ということで、ほかのカテゴリの仕方もあるということでしたので、これは職員の手作業で直さないといけないところがあるので、どこまでできるのかは難しいところもあるのですけれども、可能な限り、いただいた御意見を参考にさせていただきながら、改善していきたいと考えております。

それから、これからAIがかなり普及している中で、AIにより参照してもらえるような情報発信をしていかなければいけないということでございましたので、AIが引用しやすいようなQ&Aみたいな形でテキストで出していくというようなことなのかなと理解いたしましたので、そういうようなところも入れていきたいと思っております。

そのほか、スマートフォンで皆さん、情報を得られていくということですので、この年金ポータルもそういうところも意識しながら改善ができるようにしていきたいと思っております。

御意見をいただきましてありがとうございます。

○上田座長 ありがとうございます。

それでは、最後に、議題5の「いっしょに検証！公的年金」のアップデートについて、事務局から御説明をお願いいたします。

○免田数理調整管理官 年金局数理課数理調整管理官でございます。よろしくお願いいたします。それでは、私のほうから資料5に沿いまして「いっしょに検証！公的年金」のアップデートにつきまして御説明さしあげます。

また、構成員・オブザーバーの皆様におかれましてはお手元に、現在「いっしょに検証！公的年金」内で掲載されております漫画もあるかと思っておりますので、もしよろしければ、こちらも併せて御覧いただければと思っております。

では、2ページ目を御覧ください。年金局数理課では、公的年金の仕組みや財政検証につきまして、漫画などを使って分かりやすく説明することを目的といたしまして、2014年5月から厚生労働省のホームページにて「いっしょに検証！公的年金」というサイトを公開いたしております。さらに、令和元年の財政検証が公表されたことを踏まえまして、2022年7月にリニューアルも行っております。

現在のトップページは、同じ2ページ目の右下にございますけれども、こちらのオレンジ色基調の女の子と猫が掲載されているものとなっております。漫画があると申し上げましたが、このオレンジ色基調のトップページの中に漫画もございまして、こちらの漫画の大枠といたしましては、こちらに出てきている女の子、ゆいちゃんといいますけれども、このゆいちゃんが猫のミーコから年金制度の仕組みや財政検証につきましてレクチ

ヤーを受けることによって、少しずつ公的年金制度について詳しくなっていく形を取らせていただいております。

では、3ページを御覧ください。先ほども申し上げましたとおり、現在のホームページは令和元年財政検証結果を基とした構成となっております。しかしながら、令和6年に財政検証結果が公表されたこと、そして、令和7年には年金制度改正が成立したということ踏まえまして、このホームページにつきましてもアップデートを行う必要があると考えております。

具体的には、令和6年財政検証にて初めて実施いたしました個人単位の年金額の分布推計の内容であったりとか、令和7年年金制度改正が個々人の年金等に与える影響などにつきまして、国民の皆様へ周知・広報を行うことを目的として新しく漫画を追加したい。そのように考えております。これに加えて、既存の漫画につきましても内容を令和6年財政検証に合わせる必要もあるかと思っておりますし、また、新しく漫画を追加することによりまして、既存の漫画と新しい漫画で整合性が取れない部分も出てくることも想定しておりますので、そういった部分につきまして修正を行いたく考えております。

このような新規漫画の作成や既存の漫画の修正を行うに当たりましては、可能な限り、先ほどの議題にもございましたけれども、炎上リスクにつながるような不適切な表現や、国民の皆様が不快に感じるような表現がないように、注意しながら進めていくつもりではございます。しかしながら、限界があるとも一方で考えておりまして、我々が作成時点では想定していなかった観点が存在するかもしれないとも思っております。

このため、漫画のネームができた段階で、このページの右にも記載してございますモニター調査やデプス調査も行うことによって、不適切な表現や国民の皆様が不快に感じる表現がどこにあるのかということも見ていながら漫画を作成していきたいと考えてございます。こういった調査や、後ほども申し上げる予定でございますけれども、年金広報検討会の皆様からの御意見も踏まえまして、新しい漫画や既存漫画の修正を行いたいと考えてございます。

最後、4ページでございます。こちらは今後のスケジュール（案）となっております。

今年の夏以降、この新しい漫画のネームの作成や先ほど申し上げた調査を行おうと考えております。そして本年中に、この出来上がりしましたネームを一度、年金広報検討会の構成員の皆様にも御確認いただく機会をいただければと考えてございます。その後、皆様からいただいた御意見も踏まえまして、ネームの修正、さらに、漫画の作成の工程のほうに移らせていただきまして、今年度末までに最終報告をさせていただくことを想定しております。

以上、御報告となって恐縮でございますけれども、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私からは以上でございます。

○上田座長 御説明ありがとうございました。

それでは、この議題5につきまして、皆様から御発言を承りたいと思います。いかがで

しょうか。

特にございませんでしょうか。

山口先生、どうぞ。

○山口構成員 御説明いただきありがとうございます。今の漫画もかなり恐らくいろいろな方がチェックして、私もいろいろとコメントさせていただきましたけれども、非常にバランスの取れた、よい漫画になっていると思います。

炎上リスクというところで申しますと、例えばジェンダー関係のバイアスとかアンコンシャスバイアスとか、いろいろなものが火種になり得るところをしっかりと、恐らく、この漫画は炎上していないと私は理解しているのですけれども、あまりネガティブな文脈で語られることもなく、多くの方に読んでもらっているのかなと思います。

ただ一方で、昨今の動きを見ますと、当時、これをつくったときには縦読みの漫画がはやっているので縦読みもつくったらいかがですかというお話をした記憶があるのですけれども、今は、先ほど申し上げたとおり、漫画はそういう感じです。いわゆるウェブトゥーンと言われるような形式ですけれども、ウェブトゥーンと呼ばれる形式は、実はただ単に縦読みするというわけではなくて、こま割り自体が全然違うのです。横にコマが出るということ自体があまりなくて、縦にずっと続いていくというものなので、ウェブトゥーンに特化したつくり方をしてもいいのではないかと思います。

その話とも関連するのですけれども、文字が多いのですよ。今、漫画が読めない子が増えていて、それも文字が多くて、読むのが面倒くさいからなのです。そこからショート動画に行っているという話なわけですけれども、今回は漫画をつくりましょうという話なので、別にショート動画にしろという話をしたいわけではなくて、漫画でもやはり文字は最小限にするというような意識は極めて重要なこと。正しい情報を正確に伝えようとすると、ついつい文字数がどんどん増えていくわけですけれども、だったら、漫画を幾つかに分けるとか、とにかくできるだけ1メッセージ、2メッセージぐらいに絞って、すごく簡単にするというのが実は読まれやすくなるのではないかと。

だから、例えば2話ぐらいでやっているところを別に10話ぐらいにしてもいいわけです。その代わりに余白を多くして、しっかりと漫画として、文字少なめで、ぱっと頭の中に直感的に入ってくるような設計をするというところを意識することが大切なのではないかと思った次第です。

私からは以上です。ありがとうございます。

○上田座長 ありがとうございます。

ほかの皆様、いかがでしょうか。

私も今の山口先生の御意見に全く同感でございます。今の学生たちと接していると、字が多いと読んでくれない。ただ、私も前に金融機関にいたときの経験で分かるのですけれども、正確に記そうとすると、どうしても文字数が多くなってしまう。そのバランスの問題だと思うので、山口先生がおっしゃったように、こま数を分けて、1つのこまの中に

は1フレーズぐらいのほうが、それで縦読みでどんどん流していくようなほうが受けはいいのかなという印象は持ちました。感想です。

ほかの皆様、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、今、出されました意見等を踏まえまして、アップデートに向けた作業をお願いできればと思います。

あと、浅川先生は御参加されましたか。

○事務局 はい。

○上田座長 浅川先生が御参加されましたので、議題にこだわらず、全体を通じまして何か御意見等ございましたらお願いしたいと思いますが、浅川先生、いかがでしょうか。

○浅川構成員 はい。浅川です。すみません。

○上田座長 では、議題が最後まで行ったのですけれども、最初から最後まで通しで、何か全体として御意見あればぜひお願いいたします。

○浅川構成員 御指名いただきましてありがとうございます。つい先ほどまで授業だったもので、遅くなりまして申し訳ございません。

議論に参加させていただいたのが一番最後の「いっしょに検証！公的年金」についてというところなのですけれども、山口先生がおっしゃったことは私も本当に全く同感で、やはり私は学校現場にいますと、いろいろなところが送られてくる。一応、形は漫画なのですけれども、漫画といいながら、実はほとんど説明になっているというものが結構多くて、これでは正直、なかなか読まないだろうと感じてしまうことが結構あって、その意味で、私も本校は学力に課題がある生徒が多い学校ですので、伝えたいこととか教えたいことはたくさんあるのですけれども、その中で優先順位をつけるといいでしょうか、一番伝えたいことはこれで、次はこれでという、本当だったら10伝えたいところを最低でも1か2だけ伝えればいいというぐらい割り切って授業をやっているところがございます。

年金のところについても実はその部分という観点が大事なかなと思いますし、最近、よく新聞記事などでもネットのいわゆる新聞社の記事だと、最初に要点を3行にまとめるとこんな感じですよとかとなっていますけれども、漫画はそもそも読めない人だったらこういうことに気をつけようと最初にまとめてしまうであったりとか、本当に伝えたいところをかなり強調してやっていくであったりとか、先ほどあったように、ストーリーを短くするであったりとか、この漫画が実際つくられたとき以上に本当に読めなくなっているという現状がございますので、あとはなかなか、こういった観点で批判を受けるかということは予想がつかないところではあるのですけれども、ただ、厚生労働省としてこういったことは伝えたいというものを最大限焦点化する形で作成していただくほうがいいのかなと思いました。

以上になります。ありがとうございます。

○上田座長 ありがとうございます。

あと、宮田先生も、途中から御参加されましたので、もし全体を通して何かコメントご

ございましたらお願いいたしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○全国家庭科教育協会・宮田様 ありがとうございます。宮田でございます。

私も途中からの参加になってしまい、ちょうどZKKの植村先生のご発言あたりから参加したのですけれども、やはりコンテンツの情報が多過ぎて、何を選べばいいか分からないとか、文字が多過ぎて、どこを見ればいいか分からないというところが整理されたほうがいいかなと感じるところでございます。

私自身も授業でプリントをつくるときに文字が多いといつも文句を言われてしまう側ですので、どこに気をつけて、どこに焦点を当てていけばいいかというのは非常に難しいところですが、伝えたいことをいかに端的に示すかというところを目指して様々なコンテンツをつくっていただいて、私たちやいろいろな方たちの役に立つようなものにしていただきたいと希望します。

以上です。どうもありがとうございました。

○上田座長 ありがとうございます。

議題は以上でございますが、あと、お時間が少々ありますので、全体を通じて何か言い残したことがある方はいらっしゃいますか。よろしいでしょうか。

私は、先ほどのPIVOTの動画のところでコメントを言うのを忘れてしまったのですけれども、開始から3分で離脱する方が非常に増えるというのがあったのですが、多分、みんな、今はタイパ重視になっているので、やはり3分以上の動画は難しいかなと。私自身も、例えば経済情勢の分析などをYouTubeで出ている動画を見て情報をつかむことはあるのですけれども、1.5倍速ぐらいにして、できるだけ短い時間で見ようとするようなことをやってしまうので、動画は小分けにして短いものを上げたほうがいいかなと思いました。

すみません。言い忘れたので、それだけ付け加えさせていただきます。

特に御意見なければ、本日の議題は全て終了いたしましたので、皆様、今日はお忙しい中、また、授業のある先生方においていただき大変ありがとうございました。

それでは、今後の予定について、事務局からお願いいたします。

○安済年金広報企画室長 本日は、活発な御議論をいただきましてありがとうございます。各議題につきまして、多くの御示唆をいただきましたので、いただいた御意見を踏まえて、取組を進めてまいりたいと考えております。

資料0-2の構成員名簿で、山口先生の肩書きが准教授となっておりますが、正しくは教授ですので、おわびの上、訂正をいたします。

次回の日程につきましては、秋頃を予定してございますので、追って事務局より御案内させていただきます。

○上田座長 それでは、本日の会議はこれで議題が全て終了いたしました。皆様、お忙しい中、どうもありがとうございました。